

日本自動車史の資料的研究 第19報  
現存する日本最古の自動車“Locomobile”の  
輸入時期についての考察

大 須 賀 和 美

1. 初 め に

函館市から西方へ松前街道を約30km、函館湾口に面した上磯町当別の地に“男爵資料館”（写真-1）と称する施設があり、ここの特別展示品に“Locomobile”蒸気自動車がある。この自動車は故川田龍吉男爵が明治35年ごろ、当時東京芝口に開店したばかりの“The Locomobile Co. of America 日本代理店”にて買い求めたものと伝えられ、日本人が使用し、かつ現存する最古の輸入自動車と考えられる。



（写真-1）男爵資料館正面

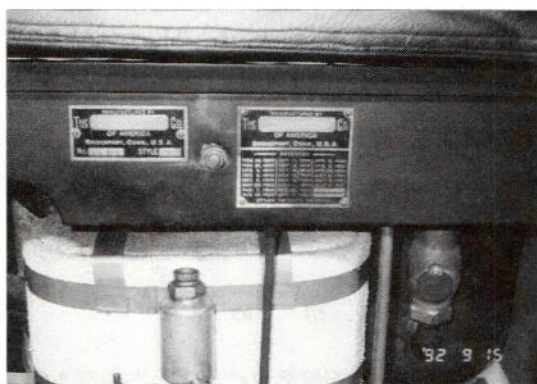
路上にあるのはロコモビルの同寸模  
型で、同館員 東松氏苦心の手造り、  
座席下のバイクのエンジンにより後車  
軸チェーン駆動、実走行可能とさく。

参観者が車上でスナップ写真を撮っ  
ていた。

川田男爵は“男爵イモ”の名で知られ、また“男爵資料館と Locomobile”については、昭和54年10月NHK札幌放送局からTVで全国に紹介され、その存在は衆知のものとなっている。しかし、川田男爵の人物像と農場経営に関しては詳細に伝えられているが、自動車に関する情報は少なく、特にその購入時期を明治34年9月として伝えられている点につき、筆者が早くから1年のずれがあり、明治35年9月頃が正しいと指摘してきたものである。

最近縁あって男爵資料館を二度訪ねる機会があり、当館主 木村孝二氏の御案内でこのLocomobile を詳細に験べることができ、新たに前述購入時期の誤伝を裏付ける資料を発見できたので、ここに発表することとする。

2. 男爵資料館に展示されている Locomobile の銘板について



(写真-2) Locomobile の銘板  
(注) 銘板の上部は座席, 上部はボイラ。

同車の座席下の横板に二枚のしんちゅう製銘板がリベットされており, 90年を経過した今日でも鮮やかに読み取ることができる。(写真-2)

一枚には製造会社名と製造番号及び車体スタイルが印字されており, 次のとおりである。

MANUFACTURED BY  
THE "Locomobile" CO.  
OF AMERICA  
BRIDGEPORT, CONN., U. S. A.  
No. 3605 STYLE 2

(注) Locomobile の文字は赤色,  
数字は打刻である。

次いでいま一枚には, 同上製造会社名とパテント(特許)の年月が列記されており, 次のとおり読まれる。

| —PATENTED—            |      |          |      |          |      |
|-----------------------|------|----------|------|----------|------|
| NOV. 14,              | 1899 | SEP. 11, | 1900 | APR. 9,  | 1901 |
| NOV. 21,              | 1899 | SEP. 18, | 1900 | APR. 9,  | 1901 |
| DEC. 5,               | 1899 | OCT. 18, | 1900 | APR. 30, | 1901 |
| DEC. 5,               | 1899 | NOV. 13, | 1900 | JUL. 2,  | 1901 |
| DEC. 5,               | 1899 | NOV. 13, | 1900 | JUL. 9,  | 1901 |
| MAY. 29,              | 1900 | DEC. 11, | 1900 | JUL. 9,  | 1901 |
| AUG. 7,               | 1900 | FEB. 12, | 1901 |          |      |
| AUG. 14,              | 1900 | APR. 9,  | 1901 |          |      |
| OTHER PATENTS PENDING |      |          |      |          |      |

### 3. 川田男爵の Locomobile 購入時期の確認

#### (1) 販売店の開店時期に関する資料

##### ① 月刊雑誌「輸友」第9号（明治35年7月5日発行，輸友社）

●亜米利加ロコモビル商会の日本代理店……亜米利加ロコモビル商会にては今回芝区芝口一丁目に日本代理店を設置し去月初旬より其業務を開始したるが同商会専売のロコモビル（蒸気式自動車）は今や亜米利加に於ても最も流行するものにて其快速と愉快とは記者が廻らぬ筆に述ぶるよりも廻る車の現品に就て見られる方早からん

##### ② 月刊雑誌「輸友」第10号（明治35年8月5日発行，輸友社）

●広告（写真－3参照）

（ふ乞を迅申御行る依に告廣の誌本は節の求購御て見を告廣此）



**蒸気式自動車に就て廣告**

- 蒸気式自動車は本誌専業の製造車なり
- 蒸気式自動車は米國に於ても各種自動車に先なり
- 蒸気式自動車は各種自動車中の至便至利なるものなり
- 蒸気式自動車は輕便にして費用に過し愉快にして娛樂界の王なり
- 蒸気式自動車は如何なる天氣如何なる惡路をも之と疾走せしむるを得
- 蒸気式自動車は馬車と通ぜざる坂路も泥濘車輪を没する惡路も愉快に疾走するを得
- 蒸気式自動車は二人乘四人乗以上乗入にても此れに乘りて突快路の内に行取せしむるを得
- 蒸気式自動車に御試乗希望の御方へは何時にても御申越次御試乗料を爲して立替に供す
- 蒸気式自動車に就て其構造説明を求めらるゝ向は御一報あり

横濱市山下町七十七番（電話八五六番）  
 東京市芝區芝口一丁目九番地  
**亞米利加ロコモビル會社日本代理店**  
 電話新編 三四二七番

（写真－3） 月刊雑誌「輸友」広告  
明治35年8月発行，第10号

##### ③ 月刊雑誌「汎交通」第61卷第3号（昭和36年5月25日発行，社団法人日本交通協会）

●日本最初の自動車……宮崎峰太郎（本会正会員・東陽工業社会長）

……（前略）明治33年4月，米国貿易会社（アメリカ・トレーディング・カンパニー）の機機部に筆者が在勤中（当時19才），米国富豪の息子トムブソン氏が滞日中，会社を通じ

てロコモビル自動車を購入したことがある。これが我が国へ輸入された自動車の最初であった……（中略）その時の販売価額は一台二千五百円であって、米国貿易会社ストーンは別会社を設け、ロコモビル・カンパニー・オブ・アメリカ日本代理店を新橋芝口に開店して数台を陳列した。それは明治34年4月のことである。

……（中略）燃料は輸入揮発油を使用するため、当時としては相当高額の燃料費につき、なかなか思うようには売れなかった。ようやく34年9月、横浜ドック会社社長の川田男爵が一台買い、麻布竜土町の自宅から新橋駅まで毎日乗車された。また同年11月、浅野総一郎氏も1台を購入された。

翌35年1月、4人乗りセダン型が輸入されたが、これを乗合自動車に改造して三重県の有力者平野氏を通じ、宇治山田市の参宮自動車に1台を納入した。これが本邦における乗合自動車の第1号である。次いで同年4月、鹿児島市の緒方造船所緒方社長が一台を購入し、鹿児島市と川内町間の乗合自動車営業を開始した。即ち第2番目の乗合自動車であった。

同じ年の4月と記憶するが、第五回博覧会の大阪市に開催された時、自動車宣伝の好機なりとして参加することとなった。……（後略）

④ 日本自動車工業史稿(1) (昭和40年11月11日発行、自動車工業会)

自動車工業会が日本の自動車工業史の発行を企画され、その資料発掘に努力されている時期と、前出宮崎氏の「日本最初の自動車」記事の発表とが重なったため、従来の輸入第1号車「東宮へ献上の電気自動車」に先んずるものとし、早速史稿中に古老語る……として宮崎説が紹介され、以後 川田男爵の Locomobile 購入時期は明治34年9月と考えられてきた。

(2) 川田男爵の Locomobile 購入時期の資料的修正

前述宮崎氏の思い出話しには1年のずれがある点を筆者が早くから指摘していたのは、次の諸点からである。

① ロコモビル・カンパニー・オブ・アメリカ日本代理店の開店

明治34年4月→明治35年6月（前述、雑誌輪友記事による。）

② 宇治山田市参宮自動車の計画

明治35年1月→明治36年4月（下記、地元伊勢新聞による。）

③ 鹿児島市・川内町間乗合自動車の計画

明治35年4月→明治36年2月（下記、地元鹿児島新聞による。）

④ 大阪の第5回内国勸業博覧会

明治35年4月→明治36年3月（公式記録による。）

〔伊勢新聞〕明治36年3月24日（注、本記事以前は自動車の話題は皆無である。）

〈自動車の試運転 宇治山田町山本兵伊衛外四名より今回同町山田停車場より今在家に至る

間に「ロスモビル」自動車の運転を出願せしに就ては右試運転の爲め昨廿三日倉田技手出  
発せし筈にて同日は小磯警部長も臨席せし筈なり

〔伊勢新聞〕明治36年4月11日

〈自動車認可 予て出願中なる宇治山田山本伊兵衛等の企画に係る自動車営業は愈々去九日  
附を以て其筋の許可を得たるに付近々営業を開始すべしとなり〉

〔鹿児島新聞〕明治36年2月11日（注、本記事以前は自動車の話題は皆無である。）

〈自動車購入の計画 当市某々等発起となりて自動車数台を購入し同株式会社を設立し当市  
米之津間及び当市宮崎間の二道を往復し専ら通運又は旅客の便利を謀らんとの計画ある由  
なるが乗客は（馬車賃一里に付き五銭のものを）六銭位とし速力は馬車に倍するものなり  
と云ふ〉

〔鹿児島新聞〕明治36年11月1日

〈自動車布設願 過般来其筋に出願中なりし本縣各地方に往復する自動車布設願は三件に及  
びし由なるが何分当局者も経験なき事に付目下既設地に主任者を派遣し実査中なれば遠か  
らず許否の沙汰に及ぶべしと尤も出願者が将来事業の成否に就いては其筋にても慎重に調  
査を為し居れりと云ふ〉

上記現在までの資料に加え、今回発見できた新しい資料として Locomobile に取りつけられて  
いる前述銘板について確認したい。

銘板中パテントの年月日が列記されている日付の最後は“Jul. 9, 1901”すなわち明治34年7月  
9日である。この銘板は当然特許が確立した以後にまとめて製作されたもので、次の特許が確立  
すれば打刻しながら使えるように、最後の2行が空欄で用意されている。

特許確立後銘板の制作に入り、その製品が自動車に取り付けられる時の遅れを考えると、この  
銘板を付けた自動車は、明治34年秋頃の製品と考えられる。この時期より遅いと、他の特許も申  
請中の文字があり、過去の頻度から次の特許が打刻されているだろう。

明治34年秋頃アメリカ東海岸 Connecticut 州 Bridgeport の工場で作られた自動車が、宮崎  
氏の述べる同時期明治34年9月に日本の代理店で販売されるはずがないことは明白であり、その  
1年後の明治35年9月頃と推論した購入時期の正しさが更に確認できる。

雑誌に“日本最初の自動車”を発表された宮崎氏は、昭和36年当時80歳の高齢で60年前のこ  
とを思い出してのこと、記憶に1年のずれがあってもやむをえぬと思うが、これを自動車史として  
取り上げるには史実を再確認する必要がある。

今回の調査について格別の御協力をいただいた“男爵記念館”の 木村孝二館長に、紙上お礼  
を申し上げるとともに、同館の御発展を願ってやみません。